

## 教育の理念

グローバル・メディア・スタディーズ学部は、グローバルな問題を多角的に捉える広い視野、複雑化したメディアを経由して大量のコンテンツが流れる仕組みの理解、固定した学問領域に捕らわれない自由な発想での研究の3つを柱とする。研究対象とする中心的な学問分野は、メディアやコンテンツの本質について学際的なフレームワークで理解するための礎となる学問領域、すなわち、人文科学系、社会科学系および情報学を含めた各学問分野である。ここで、情報学とは、あくまで人文科学、社会科学の範疇で理解しなければならない考え方、手法を中心とし、工学系分野に含まれるものは中心に置かない。具体的には、経済学、経営学、社会学、政治学、政策学、文化学、法学、コミュニケーション学、情報学といった既存の学問を基礎に置き、メディア、コンテンツを対象として応用する領域である。社会科学を中心とした理論的枠組みを学修し、多元的・複合的な視座と、幅広い自由な発想で、世界のメディアをとおして情報を発信できる人材を育成する。そして、グローバルリテラシーとしての英語力および情報メディア応用力を身につけ、グローバルな視点により物事の計画、設計および判断を行い、果敢に課題の解決に挑戦できる人材の養成を目的とする。

## 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

グローバル・メディア・スタディーズ学部は、本学の教育理念に基づいて定められた下記の5つの能力を身につけ、所定の期間在学し、本学部が定める所定の単位を修めた学生に対して卒業を認定し、学位を授与する。

### (DP1) 建学の理念を実践する力〔理解、関心、意欲、態度、主体性〕

仏教の教えと禅の精神に基づき、自分をより高める自己形成と学問研究を密接に関連して行うことができる駒澤大学の学生としてのアイデンティティを備えている。

### (DP2) 幅広い教養、多様性の理解と尊重〔知識、理解、関心、意欲、態度、主体性、多様性、協働性〕

本学部の学問的基盤となる関連分野（経済学、経営学、社会学、国際文化論、国際関係論、法学、メディア学、情報学）の科目を学際領域的、多重領域的に履修し、新たな知の創造に結びつける力を身につけ、グローバル市民として多様な文化・価値観の違いを理解し、他者を尊重することができる。

### (DP3) 情報分析力と問題解決力〔技能、思考力、判断力、表現力〕

理論と実践の両面から、グローバルな課題を見出して解決への道筋を追究するための情報分析力、論理的思考力、そして問題解決能力を備えている。

### (DP4) コミュニケーション能力〔技能、思考力、表現力、主体性、多様性、協働性〕

十分な語学力、とりわけ、実質的なグローバル・コミュニケーション・ツールである英語を使いこなす力を備え、グローバルな環境において、レポートや論文等の文章読解・作成、およびプレゼンテーションを行い、自らの考えを論理的かつ明確に伝え、他者と主体的に協働する能力を備えている。

### (DP5) 専門分野の知識・技能の活用力〔知識、技能、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性〕

本学部の8つの専門学問領域に基づいてメディアとコンテンツの本質を理解し、地球規模の問題解決に資する研究・分析・提案の能力を身につけている。

## 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）と学習評価の観点のマトリクス表

◎：特に重点を置いている ○：重点を置いている			学修評価の観点												
			知識	理解	技能	思考力	判断力	表現力	関心	意欲	態度	主体性	多様性	協働性	
卒業認定・学位授与の方針	DP1	建学の理念を実践する力		○						◎	◎	◎	○		
	DP2	多様性の理解と尊重	○	◎						○	○	○	○	◎	○
	DP3	情報分析力と問題解決力			○	◎	◎	○					○		
	DP4	コミュニケーション能力			○	○		◎					○	○	◎
	DP5	専門分野の知識・技能の活用力	◎		◎	○	○	○					◎	○	○

※学習評価の観点は「学力の三要素」と「学習指導要領」に基づく。

## 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

学位授与の方針を満たす人材を育成するために、多様な専門科目の習得が可能となる柔軟な履修制度を採用し、学生の自主的判断で学習計画を作成出来るようなカリキュラムを提供する。グローバル社会の課題は、様々な分野の専門性を含んだ解決法が必要である。そのために、具体的には、グローバルなコミュニケーション能力の基盤となる英語力、および IT リテラシー能力を修得するための科目を設定したうえで、急速に変化しつつあるメディアとコンテンツの本質を理解し、それらを利活用できるようにするために、種々の専門領域（経済学、経営学、社会学、国際文化論、国際関係論、法学、コミュニケーション学、情報学）にわたる学際的科目を配置する。さらに、これらの科目を基礎として、実践的な就業力を育成するための科目も提供する。

### 1、 教育内容

- 1) 初年次教育として、専門教育の基礎になる、情報リテラシー、メディアリテラシー、英語教育を必修科目として設定する。
- 2) 専門分野をより深く学習できる機会を与えるために、演習科目（ゼミ）を2年次から設定する。
- 3) 具体的な専門分野として、経済学、経営学、社会学、国際文化論、国際関係論、法学、コミュニケーション学、情報学等を取り上げ、その領域に関連する科目を系統的に選択必修科目として提供し、学際領域の基本とする。
- 4) 技術革新がめざましいメディアとコンテンツに理論と実践の両面からアプローチし、それぞれの理解を深めるために、コンピューター・グラフィクス、映像、ウェブコンテンツなどの分野の第一線で活躍するクリエイターを講師に招き、実践的なテクニックを修得できる授業を実施する。
- 5) グローバルな環境下で活躍するための必須能力である実践的英語力を修得させるために、外国人教員を中心とした少人数制の効果的な英語教育を実践する。
- 6) 海外留学先で取得した単位を卒業単位として認定するだけでなく、海外企業でのインターンシップ、海外でのボランティア活動に関しても、帰国後に研修証明書類を提出し、審査に合格したものは卒業単位として認定する（海外演習実践講座）。また、海外研修の準備学

習と帰国後の振り返り学習についても、専門教育科目（Study Abroad）を通じて卒業必要単位として認定する。

## 2、 教育方法

- 1) 本学部の特色である多様な専門科目を柔軟に組み合わせることで履修できるようにするために、 Semester制を採用する。
- 2) 長期・短期の留学、海外インターンシップなどの海外経験を可能とするために、幅広い専門分野の科目は、2年次以降柔軟に履修できるように設定する。
- 3) 大学の外部との連携により産業界の今を知り、学生の就業力を高め、さらにはグローバル化社会における経済成長の一端を担うリーダーを育成するために、実務家と専任教員との共同授業を開講する。具体的には、最新のメディア、コンテンツ、IT、文化産業などに関わる現場から第一線で活躍する専門家をゲストとして招き、専任教員との共同作業による授業を実施する。

## 3、 評価

グローバル・メディア・スタディーズ学部では、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）、教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）、入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）の3つのポリシーに基づき、学生の入学時から卒業後までの成長を視野に入れ、教育課程レベル（学部・学科）、科目レベル（個々の科目）の2段階のレベルで学修成果の評価・測定を行う。

	入学生	在学生	卒業生
教育課程レベル （学部・学科）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 入試結果</li> <li>・ アセスメント・テスト</li> <li>・ 英語能力テスト</li> <li>・ 入学前教育取組状況 （対象者のみ）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ GPA・成績分布状況</li> <li>・ 修得単位数</li> <li>・ 学生による授業アンケート</li> <li>・ 学修行動調査（学修時間等）</li> <li>・ アセスメント・テスト</li> <li>・ 英語能力テスト</li> <li>・ 進級率（学年）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 卒業時調査アンケート</li> <li>・ 卒業生アンケート調査</li> </ul>
科目レベル （個々の科目）		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ GPA・成績分布状況</li> <li>・ 学修ポートフォリオ</li> <li>・ 学生による授業アンケート</li> </ul>	

#### 4. 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）と教育課程の編成・実施のマトリクス表

◎：特に重点を置いている。○：重点を置いている。

	科目群等	履修 単位	配当 学年	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	各科目群のねらい
駒澤 人 育 成 基 礎 プ ロ グ ラ ム  全 学 共 通 科 目	仏教と人間	4	1	◎					仏教の教えと禅の精神について理解を深め、宗教に対する正しい認識を身につける。
	新入生セミナー	2	1	○	○		◎		高校までの学びから大学での学びへの転換を図り、自立的で自主的な学習態度を身につける。
	キャリア教育	2	2			◎			社会的・職業的自立、社会・職業への円滑な移行に必要な力を身につける。
	実用英語教育	1	1・2				◎		課題がある「話すこと」「書くこと」に重点を置いた英語教育を行う。
	日本語リテラシー教育	2	1				◎		日本語の「読むこと」「書くこと」について社会人としての基礎的なレベルを身につける。
	ICT教育	2	1			◎			ICTスキルおよびICTリテラシーを身につける。
	人文・社会・自然・ライフデザイン分野	2~4	1~4		◎		○		多角的な知識と深い教養を体系的に身につける。
	外国語科目	1・2	1・2		◎				外国語について社会人に求められる十分なレベルを身につけ、異言語・異文化に対する多角的な理解と教養を深める。
健康・スポーツ分野	1・2	1~4		◎		○		スポーツの実技能力や健康に関する理論を身につける。	
専 門 教 育 科 目 等	専門基礎（英語）	2	1-2		◎			○	実践的な英語力の習得。
	専門基礎（情報リテラシー）	2	1		◎			○	実践的なICT能力の習得。
	専門導入（メディアリテラシー）	2	1	◎	○	◎	○	○	メディアとコンテンツを理解するための基本的教養の習得。
	専門導入（導入ゼミ）	2	1	◎	○	◎	○	○	ゼミ学習のための準備。
	専門（必修）	2	1-4	○		◎	◎	○	必須の専門知識を身につける。
	専門（選択必修）	2	1-4	○		◎	◎	○	一定の選択肢の中から専門知識を選んで身につける。
	専門（選択）	2	1-4	○		◎	◎	○	より深い専門知識を身につける。
	専門（演習、卒業研究）	2	2~4	○	○	◎	◎	○	ゼミ形式により、研究及び卒業論文の指導を行う。

## 入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）

グローバル・メディア・スタディーズ学部は、地球規模の問題解決に自主的かつ積極的に取り組むことによって、グローバル社会の中核を担うことをめざす学生を求めている。地球規模の問題にアプローチするため、グローバル・メディア・スタディーズ学部では、メディアと英語を駆使したグローバルなコミュニケーション能力、世界を見渡す広い視野、情報の本質を見極める力を持った人材を育成する。したがって、地球規模の問題解決に強い関心を持ち、高等学校の基礎的な学力とコミュニケーション能力を身につけている学生を、多面的かつ総合的な視点によって選抜を行う。

### 1. グローバル・メディア・スタディーズ学部の求める学生像

- (AP1) 高等学校の基礎的な学力を身につけていること。特に「英語」の基礎的な学力を身につけること。〔知識、理解、技能〕
- (AP2) 広く社会に目を向け、幅広い知識を養おうとする態度を身につけておくこと。〔意欲、関心、態度〕
- (AP3) 豊かな人間性と社会や学問に対する強い好奇心を身につけ、それらを深く考え、他の人との関わり合いの中でコミュニケーション能力を身につけておくこと。〔思考力、判断力、表現力〕
- (AP4) グローバル化に伴う諸問題に興味を持ち、4年間学んだ知識・経験を社会に出てから主体的に活用したいという意欲を持っていること。〔主体性、多様性、協働性〕

### 2. 求める学生像と入学者選抜方法のマトリクス表

◎：特に重点を置いている。○：重点を置いている。

入学制度		選抜方法	AP1	AP2	AP3	AP4	各入学制度のねらい
一般入試	全学部 統一日程入試	教科	◎				高等学校で修得した教科の理解度を重視した選抜を行う。本学部では全て全問マークセンス方式で行う。全学部統一日程入試では3教科の試験とする。T方式およびS方式では2教科の試験を行う。 本学部のカリキュラムをよく理解し、それに自主的、意欲的に取り組み、グローバル社会の中核を担うことをめざす学生を求めている。 判断基準 ・全学部統一日程入試は①国語、②英語、③世界史、日本史、地理、政治・経済、数学のうちの1科目、の3科目、T方式、S方式については①英語、②国語、世界史、地理、情報のうちの1科目、の2科目について学力試験を実施し、総合的に判定する。
	T方式	教科	◎				
	S方式	教科	◎				
大学入試センター試験利用入試	前期	教科	◎				高等学校で修得した教科の理解度を重視した選抜を行う。大学入試センター試験を受験し、学部が指定する科目の得点で選抜する。本学部では、前期に出願の機会がある。
自己推薦入試	総合評価型	出願書類	○	○			本学の教育の理念を理解し、本学で学ぶ意欲が高く、学部の求める学生像との適合性を重視して受験生を選抜する。出願資格を満たした受験生には、小論文による試験と、面接による口頭試問を行う。 本学部のカリキュラムをよく理解し、それに自主的、意欲的に取り組み、グローバル社会の中核を担うことをめざす学生を求めている。 評価基準

	小論文	◎				<ul style="list-style-type: none"> <li>・英語に突出した能力を備えていること。</li> <li>・経済・社会のグローバル化によってもたらされるさまざまな問題について高校生にふさわしい基礎表現力などを有していること。</li> <li>・本学部の特色を理解し、自らを磨いていく意欲があること。</li> <li>・コミュニケーション能力があること。</li> </ul>	
	面接口試	○	○	◎	○		
特性評価型	書類審査	◎	○			<p>本学の教育の理念を理解し、本学で学ぶ意欲が高く、学科の求める学生像との適合性を重視して受験生を選抜する。出願資格を満たした受験生には、面接による口頭試問を行う。</p> <p>本学部のカリキュラムをよく理解し、それに自主的、意欲的に取り組み、グローバル社会の中核を担うことをめざす学生を求めている。</p> <p>評価基準</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・英語に突出した能力を備えていること。</li> <li>・経済・社会のグローバル化によってもたらされるさまざまな問題について高校生にふさわしい基礎表現力などを有していること。</li> <li>・本学部の特色を理解し、自らを磨いていく意欲があること。</li> <li>・コミュニケーション能力があること。</li> </ul>	
	面接口試	○	○	◎	○		
特別入試	スポーツ推薦入試 ※公募制ではありません	出願書類	○	○		<p>本学の教育の理念を理解し、本学で学ぶ意欲が高く、学科の求める学生像との適合性を重視して受験生を選抜する。指定されたスポーツ競技で高い能力を持ち、かつ、競技部の部長の推薦を得られた者を対象に、小論文による試験、面接による口頭試問を行う。</p> <p>本学部のカリキュラムをよく理解し、それに自主的、意欲的に取り組み、グローバル社会の中核を担うことをめざす学生を求めている。</p> <p>評価基準</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・指定されたスポーツ競技で高い能力を備えていること</li> <li>・英語に突出した能力を備えていること。</li> <li>・経済・社会のグローバル化によってもたらされるさまざまな問題について高校生にふさわしい基礎的知識と問題意識を備え、論理的理解力、分析力、表現力などを有していること。</li> <li>・本学部の特色を理解し、自らを磨いていく意欲があること。</li> <li>・コミュニケーション能力があること。</li> </ul>	
		小論文	◎	○	○	○	
		面接口試	○	○	◎	○	
	社会人特別入学試験	出願書類	○	○			<p>生涯学習の一環として、社会人に大学の門戸を開き、学内の活性化を図る。本学部では小論文および英語の試験、面接による口頭試問を行う。</p>
小論文		○	◎	○	◎		
教科		◎					
面接口試		○	◎	○	◎		
帰国生特別入学試験	出願書類	○	○			<p>国際的感覚を身につけた個性ある勉学意欲旺盛な学生を受け入れる。外国の高等学校に2年以上在学した受験生を対象とする。本学部では日本語（小論文）および英語の試験と面接による口頭試問を行う。</p>	
	筆記	○	◎	○	○		
	教科	◎					
	面接口試	○	◎	○	○		

外国人留学生 入試	出願書類	○	○			外国籍を有する者で、大学教育を受けることを目的とした受験生を対象とする。日本学生支援機構が行う「日本留学試験」の受験を出願条件とする。本学部では、小論文および英語での面接による口頭試問が行われる。
	日本留学試験（成績）	○				
	小論文	○		○	○	
	面接口試（英語）	○	◎	○	○	
編入学試験	出願書類	○	○			大学・短期大学・高等専門学校を卒業した者や他大学在学中の者等を対象とする。本学部では、小論文、英語の筆記試験、および、面接による口頭試問を行う。
	筆記	○	○	○	◎	
	教科	◎				
	面接口試	○	○	○	◎	